

新『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示）と 博物館展示との関連（例）

【理科】 * 「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」のうち展示と関連するのはBの領域

学年	目 標	内 容	※取り扱い	関連する展示等
第 6 学 年	<p>(2) <u>生物の体のつくりと働き、生物と環境、土地のつくりと変化の様子</u>、月と太陽の関係を推論しながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、生命を尊重する態度を育てるとともに、<u>生物の体の働き、生物と環境とのかかわり、土地のつくりと変化のきまり</u>、月の位置や特徴についての見方や考え方を養う。</p>	<p>B 生命・地球</p> <p>(1) 人の体のつくりと働き 人や他の動物を観察したり資料を活用したりして、<u>呼吸、消化、排出及び循環の働きを調べ、人や他の動物の体のつくりと働き</u>についての考えをもつことができるようにする。 ア <u>体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること</u>。 イ 食べ物は、<u>口</u>、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。 ウ 血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素を運んでいること。 エ 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。 ※ウについては、心臓の拍動と脈拍が関係することにも触れること。 ※エについては、主な臓器として、肺、胃、小腸、大腸、肝臓、腎臓、心臓を扱うこと。</p> <p>(2) 植物の養分と水の通り道 植物を観察し、植物の体内の水などの行方や葉で養分をつくる働きを調べ、<u>植物の体のつくりと働き</u>についての考えをもつことができるようにする。 ア 植物の葉に日光が当たると<u>でんぷん</u>ができること。 イ 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散していること。</p> <p>(3) 生物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。 ア <u>生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって</u>生きていること。 イ <u>生物の間には、食う食われるという関係がある</u>こと。 ※アについては、水が循環していることにも触れるものとする。</p>	<p>※取り扱い</p>	<p>【自然】</p> <p>・「いのちの詩」 ～各種動物標本で、えらの有無、口の形や骨や歯を比較しながら観察 →自然展示室の解説員、学芸員の解説</p> <p>・「いのちの詩」 ～各種植物標本 →自然展示室の解説員、学芸員の解説</p> <p>◇「いのちの詩」 コーナー一題 「自然林」 「里山」 「河川・湖沼・湿原」 「街・耕地・草地」 「海・沿岸」 ・食物連鎖にか</p>

	<p>(4) 土地のつくりと変化 <u>土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えをもつことができるようにする。</u></p> <p>ア <u>土地は、礫、砂、泥、火山灰及び岩石からできており、層をつくつれきて広がっているものがあること。</u></p> <p>イ <u>地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってでき、化石が含まれているものがあること。</u></p> <p>ウ <u>土地は、火山の噴火や地震によって変化すること。</u></p> <p>※アについては、岩石として<u>礫岩、砂岩及び泥岩</u>を扱うこと。</p> <p>※イの「化石」については、<u>地層が流れる水の働きによって堆積したことを示す証拠として扱うこと。</u></p>	<p>かわる展示</p> <p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大地の記憶」 ～海岸線の変化 岩石、鉱物、化石の各種展示（黒鉱、火山弾、クジャク石、ナウマンゾウ、デワクジラの骨格標本等等） ・各種火成岩 ・各種堆積岩 ・「男鹿の地質」
<p>* 指導計画の作成に当たって</p>	<p>(3) <u>博物館</u>や科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、積極的に活用するよう配慮すること。</p> <p>(2) 生物、天気、川、土地などの指導については、<u>野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに、自然環境を大切にし、その保全に寄与しようとする態度を育成するようにすること。</u></p>	<p>◇出前授業や水心苑での野外学習</p>